

My Favorite in Harp's song

ハープ 私の1曲

第9回 ハープ奏者 / 講師
小野 愛子 『ヒンデミット:ハープのためのソナタ』

どの世界でも、筋を一本通すというのは難しい。人が社会の調和のなかで生きている以上、ある程度の自我は抑える必要があるし、日和見など避けて唯我独尊を貫こうとすれば、協調性がないとか偏屈だとか言われかねない。別の云い方をすれば、「私は私」と言い切る前には、信念と勇気と少しばかり他人様より秀でた才能がなければならぬ。

お母様がハーピストで小学校5年からハープをすでに弾いていた小野愛子は、ご本人は多くを語らないが、ハープはかなりできた。それはやがて音楽大学へ進み、それまで演奏してきた曲を「今までなんとなく通り過ぎて行った音楽」と評したことから、ひと通りこなして来たということだと窺い知れる。そんな彼女が、ガツンという衝撃を受け、卒業演奏にまで選んだ曲があった。それが「ヒンデミット:ハープのためのソナタ」だった。

さて、このヒンデミットだが、ものの本に拠れば「伝統的な狭義の調性の枠を大きく超える音楽」「無調音楽に対しては自然倍音の正当性を守る立場から否定的」等、書き記されている。意識しよう。「もてない音楽」ということだ。一方、男気溢れる音楽家でもある。なぜなら、オーケストラに定席を持つほとんどの楽器の独奏曲を残した奇特な作曲家でもあったから。これを「かっこいい」と思える感性を、彼女は持っているということだ。念のため、彼女の名誉のために言及するが、小難しい音楽がいいということで選んだのではなく、今まで通り一辺倒に過ぎていった音群にはない音楽を見初め、卒業演奏(人生で一回きりだよな)に一番好きな曲としてもってきた、その選曲が本作だったということだ。理解したうえでさらに好きだと言うのは、勇気がいると思う。ちなみに、

稀代のバッハ弾きのピアニストであるグレン・グールドは、「現代の数少ない真のフーガの名手である」とヒンデミットの対位法技術の高さを称賛している。開拓者の真意は、ものの本質を理解した者でないと解らない。彼女もそれだけ高い感性を持っていたということだろう。

プロになってみると、要求されることが学生時代とはまるで違っていた。結婚式場の仕事が多かったというが、リクエストは来るわ、時間内に終わらせるために計算するわで、そのために多くの編曲をこなさねばならなかった。しかし、それが反って奏功した。積み重ねてきたケーススタディが、彼女をブロードな音楽家へと変えていたのだ。現在、最も注力しているテーマのひとつが、なんとハープによるゲーム音楽の演奏だ。許容ビット数が少ない中、BGMとしてのクオリティを維持することが強いられるゲーム音楽作りは、究極の引き算のクリエイトとも言える。それとハープの親和性を見出す鋭さは、訳知り顔にも「お、やるな」と思わせるものだ。ヒンデミットとゲーム音楽、一見何の脈絡もなさそうだが、信念と勇気が支える自分の音楽において、小野の中でしっかりと繋がっている。



EVENT
SQUARE

スイ
クベ
ント
ア

2021
4/10 14:00 Start
吉野直子ハープリサイタル
大阪府立中央図書館ライティホール
日本ハープ協会関西支部
(FAX:0798-74-7350 石井)

2021
3/20 14:00 Start
梅津三知代 ハープ
〈デビュー35周年〜弦(いと)と木が織りなす魔法〉
東京オペラシティリサイタルホール

■ウィルス感染等の事由で、スケジュールに変更が生じることもあります。予めご了承ください。

HARP LIFE

ハープと皆様を繋げる
オンリー・ハープなフリーペーパー

02

2021



Fifteenth
ISSUE

Vol.15

独占
新連載

夢は
ハープと共に

井上久美子ライフストーリー



KUMIKO INOUÉ 第1章 出発 A life filled with harps

ドラが響き渡り、汽笛が鳴り、船上から投げられる無数のテープ!!そして、ゆっくりと船は岸壁を離れていきました…家族や友人たちに見送られて。私は1965年の夏、この「ハバロフスク号」の船上にいました。東京芸術大学大学院2年の夏でした。これからの未来を、人生を夢見て、ドキドキしながら、そして不安で胸を一杯にしなから。



当時の日本人が、ヨーロッパに行くための一番安い方法が、このシベリア経由の旅でした。横浜からナホトカまで船で3日間、そこからシベリア鉄道でハバロフスクへ、そして飛行機でモスクワ、さらに飛行機を乗り換えてウィーンへ。全部で約一週間かかりました。料金は確か当時の金額で、片道10万円くらいだったと思います。

私はこの片道切符だけを持って、自分がどこで勉強するのか、どなたに師事するのか、まったく決まっていないう状態で日本を出たのです。とても乱暴で、無謀な出国でした。今振り返ってみても足がすくみます。よくこん

な無計画な旅を、あの厳しかった両親が許したものだと思います。その当時、日本はまだとても貧しく、1人年間500ドルしか国外に持ち出せない決まりがありました。あと半年で大学院を修了できるというのに、未来への夢と希望だけを持って、500ドルと片道切符で、どんな運命が待っているかわからずに、私は日本を飛び出したのです。この旅に同行してくださったのが、私の最初の恩師であるヨセフ・モルナル先生でした。まさに、先生

によって次なる新たな人生を歩きはじめることになったわけですが、この時の私はまだそれを知る由もありませんでした。

渡航そのものが冒険だった時代

日本海は暗く、荒れて、不気味。ナホトカまでの3日間の船旅のあいだ中、ひどい船酔いで気分が悪く、ずっと寝てばかり。そんな中でモルナル先生はとてもお元氣

で、「久美子さん、どうして船酔いしますか?」と不思議そうに何度もおっしゃっていたのを、今でもよく覚えています。この貧乏旅行が、私の人生における初めての大きなターニング・ポイントでした。数々の素晴らしい出会いと経験は、この時から始まったのです。

そして、そのたった2か月後に、私の人生にとってかけがえのない恩師となる、そして当時世界中のハーピストの尊敬と憧れの的となっていたオランダの名教師フィア・ベルクハウト先生に出会い、その教えを受けることになるうとは!

さまざまな出会いのおかげで、人生の扉がどんなふうにかいていったのかを、これから記していきたいと思います。(次号へ続く)



写真上:船から陸路へ、シベリア鉄道に乗り換える
写真中:赤の広場で、モルナル氏と
写真下:船内でアコーディオンに興じるモルナル氏



筆者略歴:東京芸術大学大学院在学中にオランダ政府の奨学金を得て留学。以後、世界各国で演奏、コンクールの審査員、指導を行う。現在、世界ハーブ協会コーポレーション・メンバー、武蔵野音楽大学特任教授、日本ハーブ協会副会長



写真左:ハバロフスク号の前でスナップ
写真下:かなりイケメンだった?モルナル氏



みんなでボレロ

昨年12月24日のクリスマス・イヴの正午から、
銀座十字屋がオンライン上で、
『ハープでつながろう! 23人で名曲「ボレロ」をリモート合奏』を開催した。

コロナ禍のなか、くすみがちな気分をハープの合奏で一掃しようと、銀座十字屋ハープ&フルートサロンの佐藤厚子講師が中心となって立ち上がったプロジェクトだ。ラヴェル作曲の「ボレロ」は、ミニマルで同じリズムが続くが、オーケストラではとても豊かな彩が感じられる名曲であり、独特の高揚感と重厚さも兼ね備えている。同じ旋律、同じリズムの繰り返しは、クセになる恍惚感を煽る。もっとも、それは訓練されたオーケストラでのことであって、ハープだけでそのニュアンスを出すのは、けっして簡単ではない。単調だからこそ、合奏という形で合わせるのが難しいため、成立したときの達成感は半端ない。写真にあるように、今回の参加者たち

の笑顔が何よりもそれを物語っている。つい家にもって孤独を感じがちなご時世だが、そんなときだからこそ、同じハープを愛する仲間との世代も超えた連帯感を感じたい…企画意図もまさにそこにあったのではないかな。

画面を観て、ただ演奏を楽しんでいる立場では計り知れないが、恐らく傍で見ていた以上に、指導された講師の皆さんや支えたスタッフたちにとっては大変な作業だったと思う。個人の練習もさることながら、オンライン上とはいえ合奏という形で昇華させるには、周囲のたいへんな尽力があったことだろう。音楽の素晴らしさは、こんなところにも発揮されるのである。ご苦労様でした!



邊見美帆子との軽妙なトークも評判に



THE GEESE DE BUT!?

新年初配信となった1月13日(水)に、「キングオブコンサート2020」でハープ・ネタを披露し4位となって注目を浴びているザ・ギースの高佐一慈(たかさくにやす)が、特別ゲストとして登場した。

まずは、ハープ奏者の邊見美帆子による本格的な演奏があって、高佐とのコラボ企画がスタート。かねてから、YouTubeにおいてアポロン高佐としてハープ・ネタを披露したり、実際にポップスをハープで演奏をしていたり、単なる余技では済まない腕前が話題になっていったが、楽器勘が良いというか、このままコメディアンと二束わらじで、ハープ奏者としてもいけるのではないかとの声も上がった。演奏の出来に気をよくしたか、本人も夏の「ハープの日」に向けて、高佐の好きな曲である久石譲の「Summer」が弾けるように仕上げてくる宣言も飛び出し、今後は俄然楽しみになってきた。高佐のような存在が登場したことを機に、どんどんハープ愛好者の裾野が広がってゆくといいですね。

何と、ザ・ギースが コンサートデビュー!?

ハープの生演奏をYouTube LIVEでお届けしている
「銀座十字屋ランチタイムコンサート」。



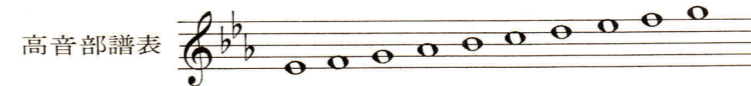
Lunchtime Concert

Point of
PERFORMANCE

演奏のポイント

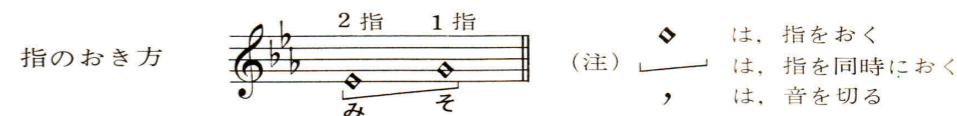
まず練習の前に、あらかじめ基本の構えをチェックしましょう。次に2と1の指の使い方、拍子をカウントしながら練習します。いろいろなポジションを試しましょう。応用練習曲の同じ音を弾く時は、振動している弦に指をぎりぎりのタイミングで戻します。最終ページの総合練習では、左右で対話するように弾くと、流れに気持ちよく乗れます。

第1指・第2指による 3度の練習

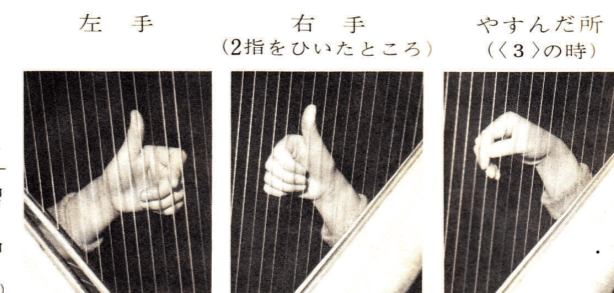


高音部譜表により右手でけいこを始めます。右手が楽にひけるようになったら、左手にうつります。左手は1オクターブ下をひきます。(以下同じ)

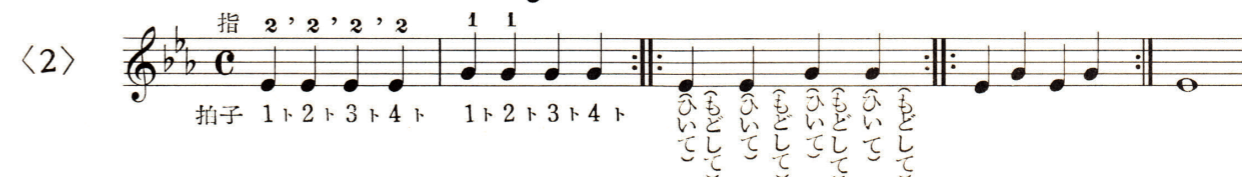
1指(親指)を外側にして手をにぎり、こころもち力を抜くと自然に手がひらきますがそのまま卵を一つ手の中に持った状態を考えてみましょう。楽な気持ちで、図のように1指・2指(人さし指)を弦の上におきます。この時親指が下がらぬように注意しましょう。



写真のように指を **みそ** にしっかりおけたなら、〈1〉のけいこです。2指(み)ひいて ※もどして ひいて もどして 1指(そ)ひいて もどして ひいて もどして リズムにのせて練習します。ひいた指先2指は手のひらの中へはいります。(※もどして…もとの弦の上へもどす)



〈2〉は〈1〉と同じ要領ですが、1拍で ひいて おきます。ひいて もどして ひいて もどして ひいて もどして ひいて もどして となり、音符は4分音符ですが、実際に出る音の長さは8分音符です。



〈3〉……上の写真参照。



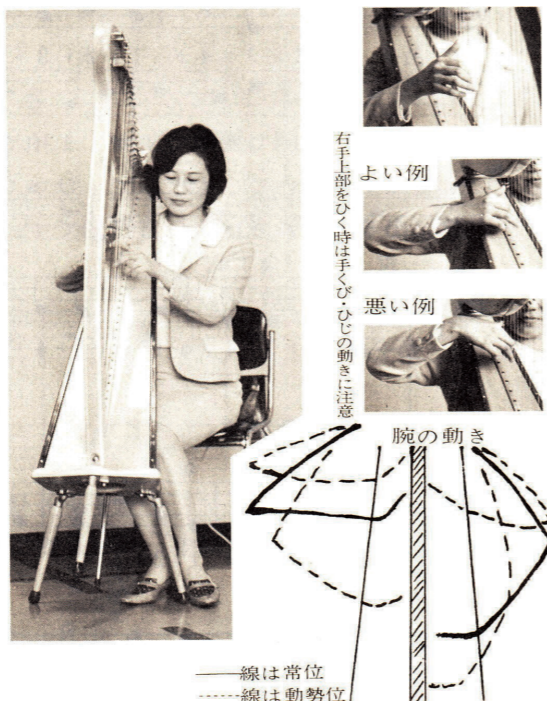
演奏の姿勢

LESSON 1 にはいる前に、練習時の準備をしておきましょう。

心の準備 • 1. 落ち着いて気持ちを楽にすること。2. 決してあせらずに、よく説明を読み、じゅうぶん理解して練習すること。3. できたと思っても、くり返しくり返し毎日練習を続けること。

上体の姿勢 • 1. いすにまっすぐ背筋を伸ばして正座する。2. 肩と腕が堅くならないように腹式呼吸をしながら力を抜く。3. ハープは共鳴箱がひざの間に来る位置に置き、手前に軽く倒して右肩でささえる。その時、背すじが曲がらぬように注意する。(注: アイリッシュ・ハープは足のペダル操作はないので、右の写真のようにひざをそろえてよい。)

指の準備 • 1. 両手の爪はいつも短かく。2. 手首は柔らかくしっかりと、3. ハンマーのように正確に。4. ひく前に必ず指を弦上に置く。



応用練習

〈ツェルニー「レクリエーション」から〉

Musical score for '応用練習' (Application Exercise) in 3/4 time. The score consists of six systems of two staves each. The bass line features a triplet pattern (3 notes) in the first system, which continues throughout. The right hand plays chords and single notes. The piece concludes with a final cadence in the sixth system.

総合練習

—変奏 2—

Musical score for '総合練習 変奏 2' (Comprehensive Exercise Variation 2) in 3/4 time, marked 'p'. The score begins with a dynamic marking of *p* and includes fingering numbers (1, 2) and a breath mark (Ω). It consists of six systems of two staves each, featuring a steady bass line and a melodic line in the right hand.

Harp Life CD Collection

ハープライフ選定 ハープ銘盤コレクション

時を超えて、いつまでも残しておきたい、
ハープの銘盤CDをご紹介します。ゆるく
コーナーです。



Harp Life
GOLD DISC
第5回

「ハープより愛をこめて／ サーシャ・ボルダチョフ」

現在ハープ・シーンには、“皇帝”メストレの次を狙う三銃士がいる。レミー・ヴァン=ケステレン、エマニュエル・セイソン、そしてサーシャ・ボルダチョフ。人選に異論がないことは、衆目一致するところだと思ふ。いずれも甲乙つけ難い有望株だが、3人には共通点がある。それは国を背負っていることだ。レミーはオランダが国費で全面バックアップしているというし、セイソンはハープ王国フランスの復権への期待が一身にかかっている。サーシャはというと、無論ロシア出身だが、むしろ自分が背負いたがっている印象がある。ロシアは知られざるハープ大国でもあるが、誤解を恐れずに言わせてもらうと、音楽的な訛りがひどい。また長い間鉄のカーテンの向こう側にいたせいか、お国自慢と排他主義の傾向が強い。うっかりチャイコフスキーより、ドビュッシーの方が好きとでも言おうものなら、延々と論破される。フィギュアスケーターたちの選曲にも、その傾向は如実に出てくるからお気づきだろう。持論だが、この3人が未だ国を背負うことを意識しているようでは、いつまでもメストレの後塵を拝することになると思う。音楽という類まれなる国際共通語を手繰れるのに、オランダ弁、フランス弁、ロシア弁に拘って、武器を自ら放棄しているようなものだ。自慢の訛りを解き、平易な言葉で語りかけてくるところにメストレの真の凄さがあるのだから。

サーシャも他聞に漏れず、愛国心が強い。幼いころから渡欧し、祖国を離れてハープを学んできた。しかもソ連からロシアに変革してゆく渦中で、若きサーシャも色々辛い日を送った。常に遠巻きにされているイメージだろうか。心に温めてきた想いは、故郷に錦を飾りたい、自分の祖国愛を周囲に認めさせたいというものになっていた。本

作が銘盤と呼ぶに相応しいか、正直、時期尚早かと思うが、ハープのアルバムでこれほど赤裸々なオープンレターを祖国に送り、ロシア芸術がいかに素晴らしいかと、雄弁かつ饒舌に語り尽くした例を他に知らない。グリンカ、チャイコフスキー、ムソルグスキー、プロコフィエフなど、普段から敷居の高そうな音楽家たちの楽曲を、サーシャは嬉々として奏でている。この若き進りこそ、彼の長所だ。超絶技巧を駆使して、ハープでショパンを弾いてしまうサーシャではなく、訛りなど気にせず大らかにお国の達人たちのクラシックを、まるでフォークロアを謳歌するが如くに弾く。腕利きプロデューサーが付いたら絶対やらない自己中企画。だからこそ、この盤には図らずも素の自分が表現され、彼の濃厚エキスが絞り出されているのだ。本作リリース後、まるで悪き物が落ちたように、ポリショイ・バレエ、カーネギーホールや中国公演など、情熱を世界へ向けだした。さらに上を目指すため、天才が存念を振り切った、けじめの一枚だったのかもしれない。三人の中では一番やんちゃで何かと突っ走るが、「メストレが一番近いのは案外この男かも…」そんな感慨を抱かせる作品である。

お買い
求めは、
こちらから!



季節の おすすめハープ

Vol.15

季節ごとに、毎号1台ずつ
銀座十字屋がおすすめする、
素敵なサルヴィハープ。
今回は「エルメス」です。

落ち着いた滑らかな
ボディラインは、
エレガントの一言。



欧米においても、日本同様、ハープを始めるにあたって、レバーハープから始めたほうがいいのか、いや最初からペダルハープで始めても大丈夫だとか、プロの間ですら様々な意見があります。そこは「習うより、慣れる」の故事ではないですが、いち早くハープを自分の体の一部として使いこなすようになるこそが何よりも肝要になる点では、誰も異存はないはずです。

今回ご紹介するのは、エルメスです。サルヴィのレバーハープの中でも最大で、ナイロンの40弦という拡張範囲(6オクターブAに達する)を備えた立派なレバーハープです。外見でお分かりのように、現代風にアレンジしたクラシックな形状は、まるでペダルハープと見紛うばかりです。イタリアのサルヴィでは、「スタート・アンド・プレイ」シリーズのラインアップに加わっています。つまり、基本はスターターのためのハープでもあるのです。前段でナイロン弦と書きましたが、合成ガットの「シルクガット」またはガット弦双方が利用可能です。それは、ペダルハープのフィーリングを、レバーのころから培う点では大きな利点でしょう。サルヴィの気持ちを代弁すると、「やはり楽器は幼少から始めたほうが絶対にいいに決まっているが、体の成長によりハープを買い替えていかねばならない。最終的には、ペダルハープを弾くというあなたなら、エルメスから始めることでハープのスケール感に慣れれば、レバーからペダルへ移行する際にも何ら躊躇することなく、スムーズに弾きこなすことができるでしょう」ということだろうと思います。無論、これだけ大きいレバーハープなので、長じてからもステージ映えるレバーハープとなってくれることは言うまでもありません。レバーにしては大きなサウンドボックスは、豊かで美しい響きを奏でます。落ち着いたなめらかなボディラインは、エレガントの一言。「過渡期のハープ」で括るには、もったいないレバーハープなのです。

Hermes

エルメス